

令和 8 年度 宇部市多文化共生推進委員会 議事要旨

日時	令和 8 年 7 月 3 日（金）9 時 30 分から 11 時 30 分まで
会場	宇部市役所 市民交流棟 2 階 会議室 A
公開	宇部市多文化共生推進委員会設置要綱第 5 条第 2 項の規定に基づき、公開で開催
出席委員（敬称略）	川崎千枝見、小寺紀美代、西山一夫、藤岡俊一、和田嘉之、田中沙織、宮本和哉、首藤裕司、神田橋芳幸（全委員出席）
アドバイザー（敬称略）	山口県観光スポーツ文化部国際課 村田真一課長 代理 調整班 長棟あかね班長
オブザーバー（敬称略）	宇部警察署警務課 白井清博課長
事務局	宇部市観光スポーツ文化部 青山佳代部長、白井幸雄理事、明德義和次長、観光交流課 林美佐課長、財前彰文副課長、国際交流係 赤間千恵係長
議事	○報告 ・宇部市の状況について ・宇部市多文化共生推進事業費助成金について ・宇部市外国出身住民のための日本語教室補助金について ・地域での多文化共生の取組・場づくりについて ○協議事項 外国人住民向け生活ガイド改定案について ○その他 ・令和 8 年度アンケートについて ・自転車安全講習について

※本議事要旨は、宇部市多文化共生推進ビジョンに関する市からの報告・説明及び協議の概要並びに委員からの主な意見等を取りまとめたものです。

1 議事内容

（1）報告

ア 宇部市の状況について

① 外国人住民人口の状況

- ・令和 8 年 3 月 31 日現在、外国人住民数は 2,570 人、人口に占める割合は 1.68%で、令和 4 年 3 月末と比べて 0.43 ポイント増加。国籍・地域別では、韓国、インドネシア、ベトナム、中国、フィリピンの順に上位。

② 外国人総合相談窓口の状況

- ・相談件数は令和 6 年度 50 件、令和 7 年度 28 件、令和 8 年度は 6 月 25 日現在で 7 件。
相談分野：通訳・翻訳、雇用・労働、日本語学習、各種手続等
- ・自治会長等の会合での窓口の周知を進めており、24 地区中 22 地区で実施済み。

＜委員の主な意見＞

- ・相談件数の減少要因を把握するとともに、引き続き窓口の周知を進めてほしい。
- ・交流イベント等を通じた情報交換やコミュニティ形成が進むことを期待する。

③ 多文化共生推進事業の進捗状況

- ・多言語によるごみ出し案内、列車利用案内、避難所表示シートの整備、青少年の国際交流、日本語学習支援等の取組について報告。
- ・寄附金を活用して日本語教育関連図書及びプロジェクターを購入。
宇部市立図書館に配備した関連図書の貸出件数は、6 月末までに 108 件。

＜委員からの報告＞

- ・学校、県、企業等における国際交流、多文化共生及び外国人住民の定着に向けた取組について紹介があった。

イ 宇部市多文化共生推進事業費助成金について

- ・外国人住民と地域住民等の交流の場づくりを支援するため、令和 8 年度から助成金を新設。
- ・申請に応じて審査・交付を行う仕組み。制度の周知を強化中。

<委員の主な意見>

- ・助成金の周知と活用を進め、地域や事業所における交流の場を広げてほしい。
- ・事業所のつながりや企画力を生かし、外国人住民が孤立しないための取組を進めてほしい。

ウ 宇部市外国出身住民のための日本語教室補助金について

- ・日本語学習機会の拡大を図るため、令和 8 年度から補助金を新設。予算額は 30 万円。
交付決定団体：外国出身住民のための日本語教室（黒石）
- ・新たな教室が開設された場合は、活動状況を確認した上で、補助について検討する。

<委員の主な意見>

- ・日本語教育は、多文化共生を進める上で重要な取組であり、継続的な支援が必要である。
- ・日本語教師やボランティアの担い手確保と支援体制の充実が必要である。
- ・日本語教室は学習の場に加え、参加者同士の交流の場としても重要である。
- ・制度の仕組みについては、状況に応じて見直すことが望ましい。

エ 地域での多文化共生の取組・場づくりについて

- ・外国人住民と地域住民が顔の見える関係を築くための取組を進める地域をサポートする。

<委員の主な意見>

- ・地域の見守り活動、祭り、文化祭等への参加は、相互理解の促進や地域との関係づくりにつながる。
- ・地域住民の理解促進と、外国人住民を受け入れる環境づくりが重要である。
- ・事業所とも連携し、外国人住民の地域行事への参加を促してほしい。

(2) 協議事項

外国人住民向け生活ガイド改定案について

<事務局説明>

- ・現行の 36 ページの冊子形式を見直し、困ったときに必要な情報や相談先を探しやすい構成へ改定する方針。QR コードから市公式ウェブサイトの多言語情報を確認し、解決しない場合は外国人総合相談窓口につなぐ構成。相談窓口の愛称は「So-Dan」とし、生活ガイドの対応言語にミャンマー語及びカンボジア語を追加予定。
- ・委員会の意見を踏まえて日本語版を確定した後、各言語に翻訳。

<委員の主な意見>

- ・「So-Dan」の表記やハイフンは分かりにくいとため、英語表記を含め、外国人住民に伝わりやすい名称・案内を検討してほしい。
- ・列車利用、日本語の自主学習、就労・ハローワーク等、生活に役立つ情報の掲載を検討してほしい。
- ・ウェブサイトの言語切替や QR コードの利用が難しい人、スマートフォンを使用しない人への配慮が必要である。
- ・持ち運びやすいサイズや、QR コードから必要な情報を確認できる構成は評価できる。

2 その他

(1) 令和 8 年度アンケートについて

- ・外国人住民、日本人住民及び事業所を対象に、令和 7 年度と同様の内容でアンケートを実施予定。調査結果は、相談体制、情報発信、日本語支援等に活用する予定。

(2) 自転車安全講習について

- ・昨年度の委員会での意見や地域からの指摘を踏まえ、令和8年11月に、山口県国際交流協会との共催及び宇部警察署の協力により、宇部自動車学校で外国人住民を対象とした自転車安全講習を実施予定。

＜その他全般に関する委員の主な意見＞

- ・地域イベントについて、外国人住民への情報発信や参加しやすい雰囲気づくりが重要である。学校行事等を通じた保護者同士の交流も有効である。
- ・地域イベントに関する情報を大学留学生にも届けられるよう、大学との連携を進めてほしい。